



Russell Academy

ラッセルが教える“資産運用のつぼ”

一つの投信だけで大丈夫？

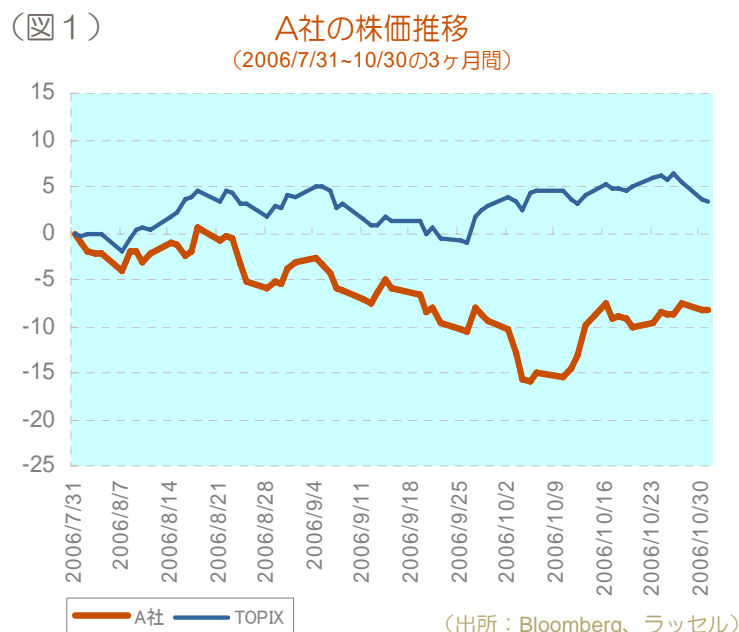
プロである投資信託の運用会社であっても、常に市場平均を上回る運用成績を挙げられるわけではありません。一つの投資信託を買っただけでは、相場環境によって運用成績が芳しくないこともありえます。

運用会社が銘柄を選ぶ方法にはいくつかのパターンがあり、パターンによって有利な時期、不利な時期があります。こうしたパターンは一般的に「運用スタイル」と呼ばれています。例えば株式の場合、代表的な運用スタイルとしてグロース（成長）型やバリュー（割安）型などがあります。

どの運用スタイルで運用した時に最もよい成果があがるかを、事前に予測することはまず不可能です。運用スタイルの異なる複数の投資信託をバランスよく選んで投資しましょう。

一つの投資信託を買うだけでいいの？

「少し日本株式の投資信託を買ってみようかな」、という問いについて、再び考えてみたいと思います。あなたは自分が一番よいと思った投資信託を一つ選びますか？まずは、図1をご覧ください。これは、ある企業の最近3ヶ月間の株価の推移です。



東証株価指数（TOPIX）で見た、日本の株式市場は平均的にはこの3ヶ月間、約4%高くなりましたが、A社の株価は8月に入ってから急落し、3ヶ月の間に10%近く下がっています。もし、あなたが選んだ投資信託がA社のような銘柄ばかりに投資をしていたら、せっかく買ったあなたの投資信託も痛んでしまいますね。

ラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号

加入協会：日本証券業協会、(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

TEL:03-5411-1515

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時(半営業日は午前9時～午前11時)まで)

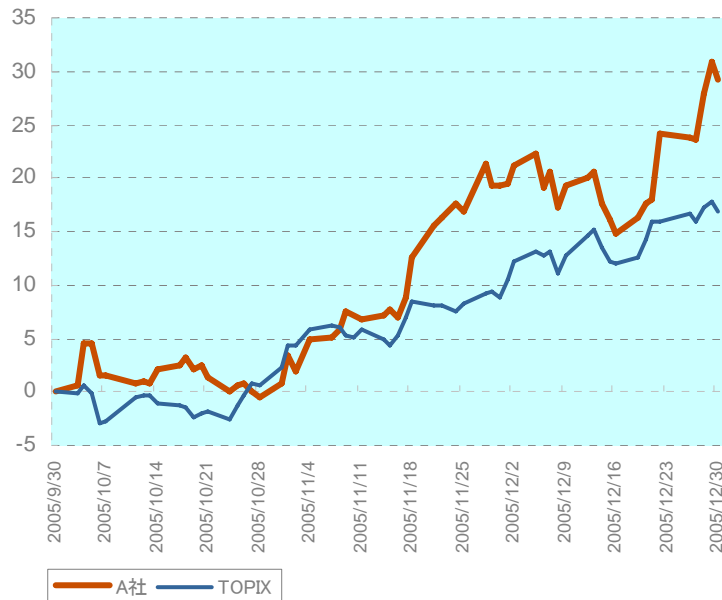
URL <http://www.russell.com/jpin>





ところがこのA社、1年前には、反対に平均的な株価を大きく上回って株価が上昇した時期がありました。図2をご覧ください。

(図2) **A社の株価推移**
(2005/9/30～12/30の3ヶ月間)



(出所：Bloomberg、ラッセル)

この時期であれば、あなたの選んだ投資信託がA社に投資していたことは、よい結果となっていたでしょう。このように、投資信託を運用する運用会社がいくらプロだと言っても、いつも市場平均を上回る成績を挙げられるわけではありません。実は、同じ日本株式でも、運用会社には、相場によって、成果をあげやすい、いわば得意な時期と、成果をあげにくい、いわば苦手な時期があります。このため、一つの投資信託を買っただけでは相場によって一喜一憂することになりがちです。

運用スタイルって何？何が違うの？

現在、日本には東証一部だけでも1,500を超える企業が上場しています。日本株の投資信託を運用する運用会社は、これらのたくさんの銘柄の中から、この先、株価が平均以上に上がると考える企業を選んで投資します。この時、運用会社は、何を決め手に投資する企業を選ぶのでしょうか。

これまでの経験から、運用会社が投資する銘柄を選ぶ方法・・・つまり、何に注目して投資する企業を選ぶか・・・については、いくつかのパターンがあることがわかっています。これが「運用スタイル」というもので、アメリカでは1970年代から意識されるようになりました。株式の運用スタイルは主にグロース（成長）型、バリュー（割安）型、マーケット・オリエンテッド（市場）型、小型の4つにわけられます。



- 1) グロース（成長）型：グロース型の運用会社は、将来、他社に比べて利益が伸びることが期待できる企業を見つけて投資します。あるいは、丹念に調査をした結果、多くの人が予想しているよりも、その企業の利益は増えそうだと思うならば投資をします。投資対象となる銘柄は、ハイテク産業や医薬品メーカー、小売業などに多いです。
- 2) バリュース（割安）型：バリュース型の運用会社は、ある企業の株価に着目した投資を行います。企業の持っている資産や企業の収益性から見れば、本来はもっと株価は高くてもよいはずなのに、市場から嫌われているなど、何らかの理由で安く放置されているような銘柄を探します。投資対象となる銘柄は、素材産業や金融業、電力会社などに多いです。
- 3) マーケット・オリエンテッド（市場）型：マーケット・オリエンテッド型の運用会社は、グロース型でもバリュース型のどちらかにいつも偏るということはなく、いわば中間的な存在です。
- 4) 小型：小型株の運用会社は、時価総額*で見た規模の小さい企業に投資をします。小さい企業の中には、若くて成長著しい企業もあるでしょうし、企業そのものは古くてもあまり大きくならない企業もあります。投資対象となる銘柄は、機械メーカー、小売業、サービス業などに多いです。

なぜ運用スタイルの分散って大切なのか？

どの運用スタイルで運用した時に最も成果があがるか、常に予測できればよいのですが、実際には、時期によってグロース型が有利になったり、バリュース型が有利になったりして、運用スタイルの好不調が入れ替わるため、あらかじめ次に有利な運用スタイルがどれかをあてることはまず不可能です。冒頭に、一つの投資信託を買っただけでは、相場によって一喜一憂することになりがち、と申し上げました。もし、あなたがよいと思って投資した投資信託がグロース型の運用スタイルによるもので、しかしながら相場はバリュース型の「運用スタイル」の方が成果をあげやすい時期だったとしたら・・・結果はおわかりでしょう。

投資信託の成績に一喜一憂するのは、忙しいあなたの時間ももったいなくないですか？その時々旬の「運用スタイル」を判断することがとても難しい以上、運用スタイルの異なる投資信託をバランスよく選んで、ゆったり構えて投資をしましょう。

* ある企業の価値をある時点の株価をもとに評価したもので、これまでにその企業が発行した株式の数に株価をかけたもの。

発行日：2006年12月18日



◎ご留意いただきたい事項

•本資料はラッセル・インベストメント証券投信投資顧問株式会社が投資に関する一般的情報の提供を目的として作成したものであり、特定の運用商品の推奨等の投資勧誘を目的としたものではありません。また金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

•投資信託は、株式および公社債等値動きのある証券に投資しますので、組入株式や組入公社債等の価格の下落ならびにそれらの発行会社の倒産または財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、これらに加え外貨建資産を保有する場合、外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、基準価額が下落し損失を被ることがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。

•リスクは上記に限定されるものではありません。投資信託の取得のお申し込みにあたっては、必ず当該商品の投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受け取りになり、「投資リスクおよび留意点」等、内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

•投資信託には、「お申し込み時」、「ご換金時」、「保有期間中」にご負担いただく手数料等の諸費用が発生します。投資信託の取得のお申し込みにあたっては、必ず当該商品の投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受け取りになり、「手数料および税金」等、内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

•投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

•金融商品取引業者以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

•当資料は、当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その情報の正確性や完全性についてこれを保証するものではありません。

•当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

Copyright © 2007. Frank Russell Company. All rights reserved.

当資料中「ラッセル・インベストメント・グループ」及び「ラッセル」は、フランク・ラッセル・カンパニー及びその子会社等の総称です。

ラッセルによる事前の書面による許可がない限り、資料の全部又は一部の複製、転用、配布はいかなる形式においてもご遠慮下さい。